

**政策における問題の兆候と原因、そして分かりやすさの弊害**

一般社会において高い影響力を持つ政策の実現ほど難しく、一時的かつ限定的な影響力に止まる政策ほど比較的实现しやすい。こうした実態に陥る原因は、政策思考のスタートラインにある出来事に対する観察の質にある。なぜならば、高い影響力を持つ本質的な原因ほど表面的には分かりづらく一般的に隠れているため、難解で住民の理解を得ることが困難な位置にあるため、より高い観察力を要するからである。一方で、一時的な原因は、表面的に分かりやすいため住民や利害関係者の支持を得やすい。このため、特に選挙の年には一時的な原因への対処が政治的に優先され、本質的な政策課題は後送りとなりやすい。なぜ、高い影響力を持つ政策が一般的に分かりづらいのか。それは、本質的な因果関係、すなわち原因と結果の間の時間的・空間的な繋がりを持っていないためである。分かりやすい説明は必要である。しかし、明確化ではなく平易であることを分かりやすさとして重視するあまり、政策の質も一時的な原因のレベルに劣化しやすくなっている。影響力の高い分かりづらい原因とその政策への理解を高めるためには、初めから多くの住民ではなく、一人でも多くの住民に政策への「理解」ではなく「注意認識」を向けてもらうことが重要となる。最初から理解を得ることになれば、問題の本質的な原因ではなく、表面的原因のレベルで利害関係の調整を行うため、政治的には目先の事柄に注力しやすい。これに対して、長期的な成功をもたらす力学に注意を向け、その注意を日々の議会や行政、さらには地域の中に浸透させることが可能となる。

本質的な原因を見抜くには、「問題の兆候」と「問題の原因」を明確に区別することが重要となる。兆候と原因を分ける意味は、「問題の兆候」に働きかける政策が、複雑な経済社会問題においては極めて稀にしか本質的な成果をもたらさない点にある。“兆候”は、影響力が低く持続性にも乏しいものの表面的には認識し易い要因であり、“原因”とは表面的には認識しづらいものの影響力・持続力が高い要因を意味する。なぜ、原因が兆候に比べて認識しづらいのか。それは、複雑な経済社会における平衡プロセスの中に埋没し易いためである。

平衡プロセスとは、目的、習慣、地域内の暗黙の規範等に関わる微妙なバランスを意味する。たとえば、地域における慣習や世間としての体質などが、政策効果に重要な影響を及ぼすことである。暗黙のルールは、世間に代表される構図で、「世間体」や「世間知らず」といった言葉で表される。これに対して、「世間参加」、「世間貢献」などの言葉はほとんど使われず、「社会体(しゃかいてい)」や「社会知らず」の言葉は使われないが、「社会参加」、「社会貢献」などの言葉は、よく使われる。これは、世間が閉鎖的であるのに対して、社会は開かれた場であり、世間は新たに参画する者は、地域の習慣、風習など従来のルールに従うことを最優先する体質が強いことを意味する。平衡プロセスは、世間といわれる体質が強いほど重要な視点となる。先進自治体等の取組を自らの自治体に応用しようとしても必ずしも上手く展開できない理由は、地域によってこの平衡プロセスの構図が異なることにある。

平衡プロセスは、大きく二つの要素、すなわち「地域の構造に規定された要素」と「人間の集団行動に規定された要素」の相互作用で構成される。その基本特性は次の点である。第1は、構造はゴールに向かう動きを加速するか、妨げるかのどちらかである。地域や組織への観察によって、加速要素となるのか妨害要素となるのか認識することが重要となる。第2は、暗黙のルールは明示のルールに優先する。地域や組織では、明示に規定された構造と実際に行われていることの間で、大きな矛盾を抱えながら機能している。第3は、兆候は構造の弱さを示す。兆候は、無視・否定されるべきではなく、原因に辿りつく価値ある情報として認識し、注意深く観察することが求められる。観察の良し悪しは、政策の質と方向性を大きく左右する。客観性、すなわち様々な比較を行うことで観察の対象となる情報や事象の特性を認識し、そこで生じている人間行動を読み取ることを求められる。